

生涯学習施策の体系図

生涯学習の柱

目指す方向

施策の展開

具体的施策

課題

I
《学ぶ》
生涯学習の
機会や場の充実

1
人生100年
時代を見据えた
学びの推進

2
生涯学習機会
の提供

3
家庭・学校・
地域の連携

(1)全世代型を対象にした事業の充実

(2)乳幼児期を対象にした事業の充実

(3)高齢期を対象にした事業の充実

(1)各種講座の提供

(2)学習成果の発表の場の確保

(1)家庭教育支援の充実

(2)学校での学びの充実

(3)地域での学びの充実

(4)連携による事業の充実

・人生をマルチステージと捉えると、特定の年齢層をターゲットにした内容ではなく、その時々興味を持った内容について、年齢性別を問わず、各人の置かれた状況に応じて参加できる事業等を構築していきます。

・親子の触れ合いの機会を育めるような講座、乳幼児期から文化芸術の感受性と創造性を涵養するために、文化芸術に触れる機会を提供していきます。

・高齢者の旺盛な知識欲を背景に、現代的課題解決への要望が多くあることから、今日的な新しいテーマを提案していきます。

・鳥海山・飛鳥ジオパーク関連事業をはじめ、地域のよさを実感できるような事業を提供し、郷土愛の醸成に努めていきます。例えば、本市内の観光資源の紹介ビデオ等を作成するサークルを立ち上げ、地域課題の発掘を試みについて実施していきます。

・日ごろの各サークル活動の成果を発表したいという声が多くあることから、生涯学習まつり等発表機会について、市民と直接協議する場を設けて、事業をブラッシュアップしていきます。

・保護者が楽しく子育てできるようにペアレント・プログラムを実施するほか、よりよい家庭教育の意識啓発を促す講演会を開催します。

・授業の中で地域の指導者や達人等を講師として招き、新学習指導要領で定めるところの主体的・対話的で深い学びにつながるよう努めます。

・地域の教育力向上事業の充実に引き続き努め、地域全体で「地域の子」「社会の子」として子どもたちの健全な育成を図ります。

・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動を推進するための方策を考え、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図っていきます。

1 現代的課題や地域課題解決のための学習機会の提供

2 地域課題解決等に関する必要な講座等の検討

3 学習成果を地域づくりに生かすことを意識した講座編成

4 本所、支所との情報共有、旧一市三町の一体感の醸成

5 生涯学習まつりや市民芸術祭等に参加する団体の高齢化、新規加入者の減少、時代を踏まえた工夫の必要性

16 自宅近くで生涯学習をする場や機会の確保

17 講座、講習会の種類や内容の充実

21 成果発表、活動場所の確保

6 地域学校協働活動が有効に機能するための検討

7 学校と地域の協働による地域の活性化、コミュニティ活動の活性化

II
《つながる》
生涯学習活動の
支援体制の充実

1
広報・情報提供
体制の充実

2
関連施設の
利活用

(1)学習情報発信のあり方

(2)人材の活用と育成

(3)相談体制の充実

(1)利用者ニーズへの対応

(2)生涯学習関連施設の利活用

・市広報や市公式ホームページ、カモンくんこどもニュースに加え、フェイスブック、SNS等を活用した情報発信に努め、従来以上に情報伝達手段の多様化を進めていきます。

・市主催の出前講座の発展形として、市内学習サークル等で活躍している人を講師として、コミュニティ振興会活動のイベントに呼んだり、出前講座終了後、引き続き、対象者に応じた学習メニューを提案したりと、生涯学習の活性化を図っていきます。

・市内には、中央公民館、公益研修センター、出羽遊心館等の生涯学習関連施設がありますが、学習の仕方や講座メニュー等の市民からの相談や問い合わせに対し、各施設での講座内容の紹介や人材のコーディネートに努めていきます。

・生涯学習活動として一般的にイメージされる趣味的活動といった分野から、現代的課題解決に向けた新しいテーマについても提供していきます。

・施設によっては、施設の存在そのものが十分に知られていない現状があるため、合併当初実施していた各市、町にあった施設巡り等を実施して、理解を深めてもらう事業も必要と考えています。

4 本所、支所との情報共有、旧一市三町の一体感の醸成

15 生涯学習関係の各種活動情報の確保

18 新たな会員の確保

20 団体活動のPRのあり方

22 会員同士の交流や情報交換

8 学習施設の老朽化に対する長寿命化

III
《生かす》
生涯学習の
成果の活用

1
学校・大学等との
連携の推進

2
地域活動との
連携の推進

3
地域人材の育成

4
公益活動の充実

5
持続可能なまちづくり

(1)各種教育機関との連携

(2)学生と市民との学習交流活動の推進

(1)地域の歴史と文化を学ぶ機会の充実

(2)コミュニティ組織の育成・強化

・東北公益文科大学の図書館は、市民にとって開かれた図書館でありながら積極的に利用されていない状況です。公開講座や図書館等、市民に活用してもらえるよう努めていきます。

・酒田おもてなし隊や夏休み宿題お手伝い教室等、引き続き取り組みを推進していきます。

・市民が郷土の歴史や文化を理解し、地域への理解と愛着が深まるように、文化財や郷土資料の調査研究、地域の歴史文化に関する講座の開設を進めていきます。

・市とコミュニティ振興会の一層の情報共有に努め、人材の育成と組織の活性化を図ります。

・地域リーダー育成のために、様々な組織、学習サークル活動での学びとあわせ、東北公益文科大学地域共創センターの地域共創コーディネーター養成プログラムの活用や、各人に合わせた学習プログラムの構築等を行います。

・個人の公益活動意識の芽生えにつながるよう、本市ボランティア・公益活動センターと情報交換等連携を図りながら、生涯学習での取り組みを推進していきます。

・本市の伝統文化や持続的なコミュニティ活動のために、人から学び、人へ教え、つなげる場をつくり、積極的に人を育てる取り組みを生涯学習・社会教育の観点から実施し、持続可能なまちづくりに寄与します。

10 東北公益文科大学や高等学校との連携

3 学習成果を地域づくりに生かすことを意識した講座編成

9 コミュニティ振興会と社会教育文化課との関わり

11 地域住民が活躍する機会を創出するための人材の把握・発掘とその情報共有

19 リーダーや役員のなり手不足

12 市民や地域人材が活躍できる場の創出

13 学びを地域づくりに生かすための地域人材の活躍の場の創出

14 公益活動への市民参加の促進

12 市民や地域人材が活躍できる場の創出

13 学びを地域づくりに生かすための地域人材の活躍の場の創出